

さんけん新聞

発行
特例認定
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

一口メモ

▼ピンチを…
豪雨災害で姉妹滝―水梨口間が不通になつたまま紅葉期を迎えた。深入山から水梨口へシヤトルバスが運行され、黒淵への主要ルートもマイナー。このピンチを機会に注目度のアップを期待。

さんけん自然塾

火育

さんけん自然塾「火を体験する秋の特別編」が十月三十日、安芸太田町小坂の五右衛門風呂施設で開かれた。小学生や幼児、保護者ら三十人が参加。普段、火や煙になじみがない子供たちは戸惑ったが、歓声を上げたりしながら「飯を炊き、五右衛門風呂を楽しんだ。火育事業を進めている大和重工(広島市安佐北区)が企画や社員派遣などで全面協力した。広島県と広島市両教育委員会が後援。

ご飯炊き、五右衛門風呂体験

慣れぬマッチ 浮かぶ敷板に笑い声

午前は広大さんけん部の武輪千咲さんら三人が指導してろうそくづくりやチャレンジした。溶かしたろうを型に流し込んで作る方法は、五右衛門風呂などの作り方と同じで、鑄造の技術を学ぶのが狙い。

子どもたちが「自分で炊いたご飯を食べたい」とお代わりした。

田中宏典社長は「子供達だけでなく保護者にも楽しんでもらった。弊社商品の体験を通して、生きる力の向上、自然循環に貢献したい」と、今後の開催を約束した。五右衛門風呂施設は昨年オープン、問い合わせは☎090・1488・5425(早川広幸さん)

キノコ

森とのつながり興味津々

アカモミタケ持ち帰り舌鼓

「秋のキノコトレッキング」が十月三日、小学生十一人が参加して天上山で開かれた。講師はキノコに詳しい安芸太田町在住の新谷正信さん。中学生の本宮芳太郎君、花奈さん兄妹と広大さんけん部の大崎壮己さん、武輪千咲さんが進行を担当した。

参加者は新谷さんの解説や本宮君のキノコと森とのつながりの説明に興味深く聞いた。約四十種を確認、採取したうちアカモミタケを持ち帰り、用意してあったキノコ汁に加えて、秋の味覚を味わった。自然塾の様子は、中国放送の情報番組で紹介された。

ひろしま地球環境フォーラム主催の「こどもエコツアー」が十月十六日、親子十二組三十人が参加して三段峡で開かれた。昨年までは広島市内の企業を見学するバスツアーだったが、より環境問題を身近に感じられたい」と戸内河内ポルタリ

「こどもエコツアー」開催

さんけんプログラムを担当

ひろしま地球環境フォーラム主催の「こどもエコツアー」が十月十六日、親子十二組三十人が参加して三段峡で開かれた。昨年までは広島市内の企業を見学するバスツアーだったが、より環境問題を身近に感じられたい」と戸内河内ポルタリ

清掃の会・復旧ボランティア

上餅ノ木―聖湖間で四回実施

八月の豪雨で三段峡内は通行止めが多発した。十月に入り恒例の「清掃の会」に加え、復旧ボランティアによる整備作業を三回実施した。区間は三段峡観光同業組合からの依頼による上餅ノ木―聖湖間。清掃の会には十七人、さんけんが呼びかけた復旧ボランティアには計二十人の参加があった。半数以上はリピーター。「フィールドとして使っているのでお礼がしたい」と戸内河内ポルタリ

ぐるの瀬 開通未定

ぐるの瀬の崩落は大規模で、県によると開通は来秋の観光シーズンに間に合うかは不明という。現在、正面口―石樋間が通行できる。ングの三人が初参加した。堆積物の除去、ササ刈りをして二十八日に開通した。

南峰と歩く

連載を終えて

支えになった南峰の幅広い活動

さんけん新聞の編集を担当する尾崎秀司理事から「南峰と歩く」のタイトルで連載を提案されたのは、発刊間もない二〇一七年六月頃、八月号でスタートした。タイトルが持つ力は強い。わずか五文字で企画のイメージがつかめ、景勝を多様な角度から描いたので

はいないかと思う。毎回少し多めの原稿を送った。どこが削られるのか密かな楽しみだったし、言い換えの妙には度々膝を打った。複雑な内容が限られた文字数でギュッとまとまると、三段峡の圧縮美にも似ていて、嬉しくなった。月一回、南峰と歩かないといけないのは少々プレッシャーはあったが、さすが南峰の活動は幅広く、テーマは常に見つかった。歩きながら、南峰自身はどんなガイドをしたのかと考えた。著作には景観描写が多いが、現場では違う切り口で語っていたはずだ。当時は現在ほど自然への知

識は深まっておらず、峡谷の歴史はほぼない。彼が何を語ったのか想像できないが、三段峡を歩き、いつか分かるようになりたい。貴重な資料を提供していただいた南峰研究の先輩の高下務さん、一緒に歩いてもらった本宮炎理事長、宏美事務局長、文献や情報提供をしてくださる鳥

太田川流域振興交流会議の学校間交流事業

2校 三段峡と温井ダムで体験

太田川流域振興交流会議学校間交流事業で十月、二小学校のプログラムを実施した。広島市安佐北区志屋小学校の児童十人が十月一日、「太田川流域の川の環境を知ろう」をテーマに、三段峡内へは入れなかったが、長淵や周辺の山すそで生き物探しなどをした。同小は継続的に来映している。廿日市市吉和小学校のプログラムは、さんけんが初めて温井ダムで取り組んだ「歴史を知ろう」。十一人の児童は二十一日、ダム管理者の協力を得て普段は入れない施設を見学し、温井自然生態公園で観察した。川・森・文化交流センターへ移り、水の文化館で流域の全体像や歴史、文化の展示を見学した。